

奈良県再生可能エネルギー等導入推進事業評価委員会 (第1回) 議事要旨

開催日時 平成26年11月14日(金) 10時30分～12時

場 所 奈良商工会議所

出席者

- (1) 委員：阪元勇輝委員長、木村玲欧委員、遊津隆義委員
- (2) 県：地域振興部長、エネルギー政策課職員 4名

委員長選出

阪元勇輝委員が委員長に選出された。

議事

- (1) 国の制度概要及び全体計画書について
- (2) 導入施設選定の考え方について
- (3) 第一次配分案について
事務局より資料に基づき説明

委員からの主な意見等

委員／事務局	発言内容
委員	五條市が2件採択(案)になっているが、市町村バランスを考えているか、それとも内容を精査した結果たまたま五條市が2件になったのか。
事務局	市町村をまんべんなくという考え方もあるが、まずは工夫された箇所に対して優先したいと考えている。その結果、五條市が2件となった。
委員	南和地域が優遇されていると思われ、他の地域の市町村の意欲が低下することはないか懸念される。
事務局	南部東部というだけで採択はしていない。都市部は都市部なりの工夫の仕方があるので、都市部が不利ということではない。

委員	<p>五條市は市町村合併等もあり、面積が大きいので、2箇所採択でも問題はないと思う。</p>
委員	<p>全体的に特徴がない。奈良県のエネルギー政策を引っ張っていくには、現段階の内容では不足だと感じる。</p>
事務局	<p>今回第一次配分を絞っているのは、県としても、もう少し各市町村に考えて欲しいという意図がある。</p>
委員	<p>私は以前から熱の利用を推奨している。東北地方で見たことがあるが、太陽光と太陽熱の両方、ハイブリッド型のものの方がいいと考える。コストはかかるが、太陽熱を使うと給湯も空調もできるので、上手に組み合わせれば良いと思う。</p>
委員	<p>民間でも太陽熱利用を広めようという動きがある。費用も比較的安い。温泉熱の場合は、奈良県では温泉の温度が低いこともあり、低温でもできるものを企業や大学、NPO等と連携してできれば良いと考える。</p>
委員	<p>国のお金なので、特徴を出していかないといけない。特徴を出すためには、奈良のグランドデザインの中で、16億円をこのように使っているというものを打ち出す必要がある。今回の要望箇所については、まだそこまでの段階に至っていないように感じる。</p> <p>防災の分野では、普段使えるものを、そのまま上手に災害時に併用できる「非日常と日常をつなげる」ということが大きなテーマとなっている。</p> <p>資料の他府県の優良事例に掲載されている温泉熱については、産業振興・人の誘致・地元の学習等、長期にわたって議論を重ねてきた結果である。</p> <p>一次配分を絞ったことについては良いと思うが、具体的な優良事例等を示したうえで、市町村等に対してしっかり説明していかないとなかなか進まないと思う。</p> <p>一方、独自性が強すぎると、一箇所だけの事例として終わってしまうので、独自性と汎用性のバランスも重要となる。</p>
委員	<p>例えば、学校施設ではエコスクールという制度がある。そういうのを</p>

	<p>活用して太陽光・太陽熱・地中熱とうまく組み合わせて、見に来てもらえる施設などがあるともっと普及する気がしている。</p>
委員	<p>バイオマスは採算を取るのが難しい。バイオマスは通常熱利用になるが、電気と熱のバランスをとる必要がある。これを機に市町村で考えるきっかけをつくってもらって、我々も勉強して協力できればと思う。</p>
委員	<p>防災の施設に日常の機能をつけるのは、うまくいかないことが多いが、日常の施設に防災の機能をつけることができないかと考えている。例えば、スーパー銭湯は、通常避難所には指定しないが、協定を結んで、物資を置く倉庫を置いたり、休憩所を災害時の避難所として活用するなど、防災の機能を埋め込んでいくようなことが考えられる。</p> <p>また、市町村等からの要望を待つだけでなく、県側でリサーチして、市町村に提案するアプローチも良いのではないか。</p>
委員	<p>タイムスケジュールについて、平成26年度内に、全ての施設の配分を決める必要があるのか。短い期間で、新しいアイデアを出すのは難しいので、少し遅らせることも可能か。</p>
事務局	<p>基金事業としては、平成28年度末の期限は絶対の条件であり、設計と工事で2カ年かかる工事もあることから、出来るだけ26年度中に箇所付けを行った方が良く考えている。しかし、平成26年度中に全ての箇所付けを行わなければならないというわけではなく、平成27年度に入ってから箇所付けも可能。第2回目の評価委員会で全て決まらなかった場合は、引き続きお願いしたい。</p>
委員	<p>市町村等はこのような方針を知っているか</p>
事務局	<p>本委員会で、この方針案を今後の採択スケジュールを決定していただいた後、市町村等に伝えようと考えている。</p> <p>今回の要望調査は、国の採択が決まってから市町村等に照会して、それほど期間を設けずに提出してもらった。次はもう少し照会期間を長くして、市町村にしっかり考えてもらう。</p>
委員	<p>資料5の評価基準は公開することになるか。</p>

事務局	公開する予定。
委員	公開するとなると、三番の評価基準にあてはまらないところは、最初から不利になってしまうので、地域性に特化したとか、どの市町村も4つの項目にエントリーできるような表現にした方が良いと考える。
事務局	具体的には、どのようなものがあるか
委員	南部東部については、孤立という大きな問題があるが、都市部では、帰宅困難者対策などあると思われるので、そういうものを評価項目に入れた方が良いと思う。
委員	奈良県は大阪に働きに出ている方が多いので、帰宅困難者が泊まることのできる施設などをPRしたら良いのではないかと思う。また、観光対策も売りになると思う。
委員	第一次配分については、事務局案のとおりで良いと考える。
事務局	資料5については、後日修正したものを送付するので、ご確認いただきたい。